

『町内会単位による資源ごみの分別回収』 の財政的影響をご報告します

昨年度の10月より、全町的に『町内会単位による資源ごみの分別回収』の展開を進め1年が経過しました。これもひとえに、各町内会の皆さまのご理解とご協力により、町が推進しています行財政改革のテーマであります『住民協働』（自助・共助・公助）の機能が発揮されたものと深く感謝いたします。
平成18年度の『町内会単位による資源ごみの分別回収』に伴う、財政的影響をご報告します。

【中間処理業務委託料】

(※金額:対前年度)

- ・カン・ビン・ペットボトルの中間処理業務…7,313千円の削減
- ・プラスチック製容器包装の中間処理業務…6,407千円の削減
- ・金物ガレキ・燃える大型ごみの中間処理業務…7,658千円の削減



各町内のステーションにおいて、当番制による分別の徹底がされ、不純物の混入がなくなり中間処理工場内での選別作業が必要でなくなったため、選別作業員の人件費が削減できました。

また、資源ごみの再生処理業務は、皆さんの協力によりごみの質が向上しましたので、(財)日本容器包装リサイクル協会を通じた正規ルートにより処理できることとなったため、処理費用が削減できました。

【古紙類・カンの買取金】

- ・収集業者に対する古紙類などの売却金…5,977千円の収入
- ・収集業者に対するカンの売却金…1,709千円の収入



現在、回収された古紙類やカン(スチール缶・アルミ缶)は、利用先が安定的に確保されているため有価で取引されています。当町においても契約業者より売却金の収入がありました。

～みんなで花や野菜を育てているよ～ 下羽栗保育所のリサイクル活動

下羽栗保育所では日常の保育生活の中で、次世代を担う子どもたちが、地球に優しく限りある資源、環境を大切にす循環型社会で生活していく意識の芽生えをはぐくむ機会として、給食を作る際に発生する生ごみや残菜を生ごみ処理機により有機肥料をつくり、下羽栗保育所園庭の野菜栽培、花壇の肥料に使用しています。



生ごみ処理機の説明をうける園児



処理機でできた有機肥料を土と混ぜる